

1 研究主題

「自己をみつめ、考えを深め、生き抜く力を育てる道徳教育」
～教育活動全体とつながりながら行う道徳の授業の工夫～

2 はじめに

本研究会では「教育活動全体を通じて道徳教育を行う」という共通理念を大切にしながら研究の実践をし、意見交換を行っている。本年度は、道徳的諸価値を補充・深化・統合していくために、道徳の時間を要として、他の教育活動と関連させながら行う「パッケージ型小単元」を計画し、研究実践に取り組んだ。

3 研究経過

教育研究会開催日に、小・中学校合同で各部員が授業実践を報告して、4人グループの話し合い、全体協議という流れで研究会を進めた。特に今年度は、研究主題に基づき、教育活動全体とつながりながら道徳教育を行うことに重点を置きながら研究を進めた。授業についてだけでなく、道徳教育に関わる特別活動などの意見交換も行った。研究日の開催日は、以下の通りである。

- ① 4月26日 ② 5月10日 ③ 6月14日 ④ 7月5日
⑤ 9月13日 ⑥ 10月18日 ⑦ 11月8日 ⑧ 12月6日
⑨ 1月10日 ⑩ 2月14日

4 研究の概要

本年度は、研究主題に沿った活動として、各部員が「パッケージ型小単元」を計画し、実践した成果や課題の報告をした。ねらいを明確にした系統的な指導をするために、単元全体に関わるテーマを設定した上で、絡める教科、特別活動、行事などを精選して計画し実践をした。今年実践し、意見交換をした「パッケージ型小単元」の一例を以下に紹介する。

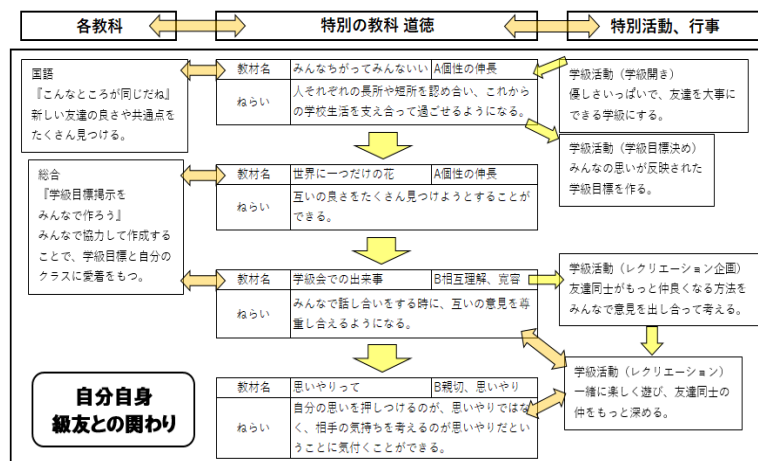
5年生の実践 テーマ「最高学年に向けて」

教科	資料名・活動名	実施日	ねらい
①道徳	わたしは飼育委員	R4.1.11	集団における自分の役割を自覚し、責任を果たそうとする実践意欲と態度を育てる
②学級活動	送る会を計画しよう	R4.1.17	一人一つの役割を割り当て、主体性をもたせ、実践意欲と態度を育てる。
③道徳	ドッジボール対決	R4.2.8	目標に向かって団結することの大切さを考えさせる。
④児童会活動	卒業生を送る会	R4.2.25	卒業生への感謝の気持ちをもって、卒業を祝い、篠岡小学校を担っていこうという気持ちを育てる。
⑤学級活動	最高学年に向けて	R4.3.7	1年の振り返りや6年生での目標を考えることで、最高学年としての自覚や意欲をもたせる。

〈成果〉

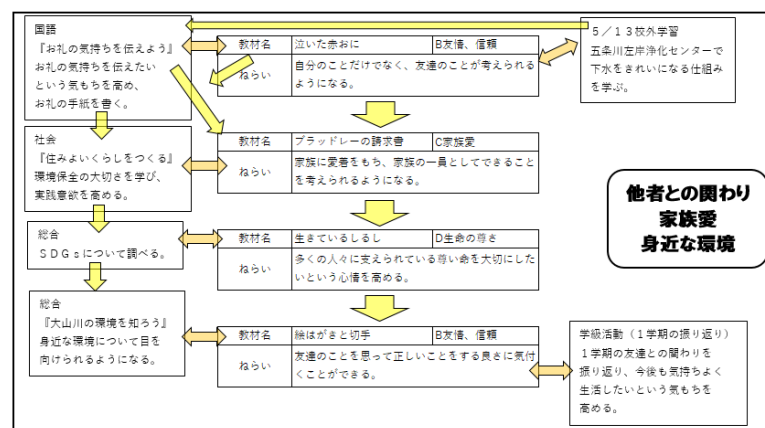
道徳「わたしは飼育委員」と学級活動「送る会を計画しよう」では学びへの動機付けとともに主体性の向上がみられた。道徳「ドッジボール対決」では団結することの大切さ、責任感に対する気づきを感じられた。最後の学級活動で、保護者からの励ましを目にした児童の姿からは、次年度に向けての意欲の高まりを感じられた。目指すねらいを明確にして他の活動と絡めたことで、最高学年に向けて、児童の大きな成長を感じることができた。

4年生の実践 テーマ「他者とよりよい関係を築き、気持ちよく生活しよう」



〈成果〉

関連する活動をより明確にするために、単元を貫く大きな目標を設定した上で、連続するパッケージ型小単元を構想し、実践した。道徳を他教科、特別活動、行事などに関連させることで、道徳的諸価値を補充・深化・統合させながら、身に付けさせたい道徳性を養わせることができた。さらには、よりよいタイミングで授業を行うことで、国語や社会などの他教科への意欲の高まりも感じられ、相乗効果がもたらされたといえる。



他者とよりよい関係を築き、気持ちよく生活できるようになる

5 おわりに

本研究を通して、教育活動全体とつながりを持たせながら道徳教育を行っていくことの大切さを実感することができた。最初は少ししか振り返りを書くことができなかったり、意見を述べるができなかったりした児童が、少しずつ確かに成長していく姿、成長を裏付ける具体的な行動が認められた時の喜び、その一つ一つが確かな手応えとして残っている。また、教育活動全体とつながりながら道徳教育を行うことで、学級経営の安定にもつながっているという実感もある。道徳教育に力を入れることへの必然性、教育活動全体を通じて行う道徳教育の大切さについて、今後も共通理解を図り、実践していきたい。